

食中毒を予防しよう!

梅雨と、それに続く暑い夏は、一年中で食中毒が多発する時期。岡山県では、集団食中毒(病原性大腸菌O-157)により小学生が死亡するなど各地での食中毒の発生をマスコミが報じています。

私たちは、食品の味・におい・色の変化によって、食品がいたんでいるかどうかを判断しがちです。ところが、食中毒の菌は、私たちを取り巻く環境(土壌、動物の体内、海水等)に広く存在しています。食品に混ざって菌が増えても外観では分かりにくいので、知らずに食べ、食中毒になる人が後を絶たないのです。

したがって、日頃から、一人一人が十分に衛生管理に心がけることが、食中毒を予防する第一歩となります。

※食中毒を予防するポイント

1、清潔 (菌をつけるな!)
手はこまめに洗い、調理器具も清潔に保つ。(煮沸、日光消毒等)



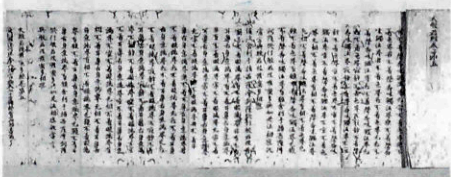
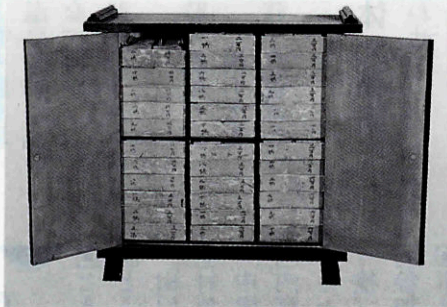
2、迅速 (菌を増やすな!)
食物は、新鮮なものを選び、早めに食べる。また、作りおき、まとめ買いは避ける。食物の保存は、冷蔵(5℃以下)する。ただし、冷蔵庫でも詰め込みすぎや長期保存は禁物です。

3、加熱 (菌を殺す!)
調理の際には、中心部まで十分加熱する。「火を通したから」と安心せず、食べる前には、再加熱する。また、井戸水は煮沸して使う。

ながと文化財めぐり

飯山八幡宮 だいはんにゃはらみつたしやくしょう 大般若波羅蜜多写経

▷5◁



おさめばこ
つたりの 付納箱

有形文化財・書跡

昭和46・10・11(市指定)

東深川の飯山八幡宮に「大般若波羅蜜多写経」が伝えられている。

納められた六百巻のうち現存するものは、折本に仕立て直された二百九十六帖(うち完全なもの二百二十六帖)。一帖の大きさはそれぞれ、縦約二七・一センチ、横九・五センチ、厚さ一・五センチである。

この写経が書き始められたのは、南北朝時代の永徳元年(一三八一)で、八年後の康応元年(一三八九)に完成をみている。また、写経の奥書から大願主は安楽寺の住職、氏雲であったことがわかる。安楽寺といえば、西深川板持の築地にあつたと伝えられる寺である。かつて同地の発掘調査で、この寺とみられる遺跡が見つかっている。

表紙の説明

教育委員会は金子みすゞ読本「みんなをすきに」(A4判、84ページ)を発行。7月5日、市内の小中学校児童・生徒約2千6百人に配布しました。

市内の小中学校の先生19人が一年半の年月をかけて制作したもので、みすゞさんの詩44編がその背景などとともに紹介されています。子どもたちに「やささ、思いやりの心」を育みたいとの思いが込められています。

青海島小では、表紙の原画を描いた和田幹雄先生が、さっそくこの読本を使い3年生の授業に取り組んでいました。

「国語の授業や学級活動のほかに、家庭でも活用して欲しい」と山本教育長は話しています。

今月の納税

固定資産税第2期

納付期限 7月31日

市の人口(7月1日現在)

面積 152.38km²

人口 25,282人(△10)

男 11,736人(△4)

女 13,546人(△6)

世帯数 8,832世帯(5)

()内は前月比